

新防災教育副読本（小学校４・５・６年）
「第５章２ 人々をつなげる活動」を活用した社会の指導案例

第４学年 社会学習指導案

仙台市立南光台東小学校
 斎藤 栄子

1 単元名 暮らしを守る 火事がおきたら（４年） 実施時期 ５月

2 単元の目標

- 火災や自然災害などから暮らしを守る取り組み方を調べ、人々が安心して生活が送れるようにするための関係機関の働きとそこで働く人々の工夫や努力を知る。
- 地域社会における災害の防止について、見学したり、調査をしたりし資料活用をしたりして調べ、人々の安全を守るための関係機関の働きとそこに従事している人々地域の人々の工夫や努力を考える。

3 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
地域社会における火災から人々の安全を守る工夫や努力に関心を持ち、見学や調査活動を通して安全を守る体制や施設、訓練。点検の様子について意欲的に調べている。	地域社会における火災から人々の安全を守る工夫や努力について、学習問題や予想、学習計画を考え表現するとともに、防災の仕事に携わる人々の工夫や努力について考え、表現している。	消防署や消防施設・設備、地域の人々の協力の様子について調べたことを具体的に分かりやすく整理している。	消防署などの関係機関は地域の人々と協力して火災の防止に努めていること、関係の諸機関が相互に連携して緊急に対処している体制をとっていること、火災から人々の安全を守るための関係機関の働きとそこに従事している人々や地域の人々の工夫や努力を理解している。

4 単元について

(1) 教材について

本単元は、本単元は、学習指導要領の第５学年の内容

(4) 地域社会における災害及び事故の防止について、次のことを見学、調査したり資料を活用したりして調べ、人々の安全を守るための関係機関の働きとそこに従事している人々や地域の人々の工夫や努力を考えるようにする。

に基づいたものである。

関係機関は地域の人々と協力して災害や事故防止に努めていることや関係の諸機関が相互に連携して、緊急に対処する体制をとっていることを学習の内容としている。東日本大震災と関連付けて学習を展開させる。

(2) 指導について

導入に、東日本大震災での様子を取り上げ、自分たちの安全を守るために、自分たちの市だけではなく多くの地域や関係機関に支援してもらったこと知らせる。

この学習では、特に、災害の中でも火災を取り上げる。消防署を中心とし、警察署、病院などがそれぞれの施設の整備や点検、訓練、広報活動などに取り組み、火災の予防や発生時に対する備えをしていること、及び火災発生の緊急事態において関係諸機関が相互に連絡を取り合い、消火や救助に当たるなどの対処をしていることを学習する。調べ学習では、消防署の見学や校内、学区内の消防設備、地域の防災の取組など、身近なことから自分たちを災害から守る取組について調べ、自分たちにできることを考えさせていく。

〈本時で行う防災教育の位置付け〉

「くらしを守る」仕事にはどんな仕事があるのか、新防災教育副読本を活用して考えさせる。東日本大震災での活動を通して、自分たちにとって身近な消防、警察などの仕事は自分たちの地域にだけにとどまらず、日本中とつながっていることを理解させる。

5 単元の指導計画とおよび評価規準

時間	主な学習内容（活動）	指導上の留意点・支援	評価規準	資料
1 本時	導入 ・災害や事故によって引き起こされる様々な事態を想起させ、安全なくらしを守る人々の働きについて関心を高めていく。	・新防災教育副読本を使用して、災害が起こったときには、どんな人々がどんな仕事をしたのか、考えさせる。	〈関意態〉東日本大震災を想起して、どんな人々が働いたか進んで考えようとしている。	新防災教育副読本 写真
1	学習問題の設定 ・避難訓練の機会を利用し、消防士や消防車や消防の仕事について考えさせ、見学の計画を立てる。	・避難訓練の機会を活用して、災害を防ぐ仕事の中から、消防署の仕事について興味を持たせる。 ・見学の視点を立て、それに基づいて、疑問カードを作成させる。	〈関意態〉消防の仕事に興味を持ち、疑問カードづくりに取り組んでいる。	カード
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>〈学習問題〉 火事から私たちのくらしを守り、また火事を起こさないために、どんな人がどんなはたらきをしているのでしょうか。</p> </div>				
2	消防署の見学 ・消防署を見学し、消防自動車の秘密や仕事の進め方などについて見学計画を基に調べる。	・疑問カード基に、視点の中で、特に興味を感じたところを重点的に調べたり、質問したりさせる。	〈技能〉見学の意義を理解し、カードにしたがってインタビューしたこと、分かったことをメモしている。	ワークシート
1	火事の現場で働く人 ・火事の現場では、消防士のほかにどんな人が働いているのか調べる。	・様々な人々が消火・救出活動に協力をしていることに気付かせる。	〈技能〉資料から火災現場には消防士以外にも働く人がいることや、どんな働きをしているか読み取って	

			いる。	
1	火事がおきたら ・119番に電話をかけると、どこにつながり、どこに連絡がいくのかを調べる。	・119番通報後、どこに連絡がいくのか予想させる。	〈知理〉関係機関が相互に連携して火事に対処する体制をとっていることを理解している。	
2	まちの消防しせつを探そう ・地域で消防施設を調べ、見つけたことをマップや写真等を使って伝え合い、消火栓の配置の工夫などを考える。	・地域を手分けして、消火栓や消火器、消防団の倉庫などがどこにあるか調べ、一つのマップにまとめさせる。	〈思判表〉消防施設の配備の工夫について考え、安全を守るために計画的に配備されていることを表現している。	写真 マップ
1	地いきの協力 ・消防団や地域の人々の取組にはどのようなものがあるか調べる。	・消防団で活躍している人に目を向けさせたり、自分にできることを考えさせたりする。	〈関意態〉地域の安全を守る諸活動が地域の人々や地域社会相互の協力によって進められていることに気付いている。	消防団 の資料

6 本時の指導

(1) 本時の目標

- 東日本大震災が発生したときの様々な支援について知り、安全なくらしを守る人々の働きについて関心を高める。

(2) 本時の指導にあたって

- 東日本大震災が発生したあと、様々な人々が被災地のために働いたことを理解させ、どんな仕事内容だったのか考えさせたい。
- 様々な地域や関係機関が自分たちのくらしを守っていることを理解させ、震災以外でもどのような人々が、自分たちの生活を守っているか単元を通してのめあてを持たせる。

(3) 指導過程

主な学習活動・内容（○主な発問・児童の反応）	・留意点
<p>1 本時の学習のめあてを確認する。</p> <p>○ 今日、東日本大震災では、どんな人々が支援してくれたかを学習します。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>東日本大震災が発生したとき、どんな人々がどんな活動をしていたのでしょうか。</p> </div>	
<p>2 新防災教育副読本50ページの写真を見て、どんな人々がどんな活動をしていたか考える。</p> <p>【どんな人々】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・警察 ・ 消防 ・ 消防 ・ 自衛隊 ・ 行政 ・地域の人々 <p>【どんな活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難誘導 ・ 救助活動 ・ 避難所運営 ・ライフラインの復旧（ガス・水道・電気） 	<ul style="list-style-type: none"> ・救命、救助、復旧、復興、支援等様々な取組を行っていることに着目させる。 ※次時の学習につなげるために、消防の活動について、写真や補助資料などで紹介することも考えられる。

3 相互支援協定や日本赤十字の活動について知る。

○ 全国から支援に来てくれたのはどうしてでしょうか。

- ・仙台の人だけでは足りないから。
- ・たくさんの応援があったほうが早く工事ができるから。
- ・前に仙台の人に助けてもらったから。

○ どこから、どんな支援に来てくれたか確かめてみましょう。

- ・北海道から九州までたくさんの都市がある。
- ・阪神大震災のあった神戸からも来てくれている。
- ・医療や必要な物資の援助をしてくれた。

○ **新防災教育副読本 51 ページの日本赤十字社、JRC（青少年赤十字活動）**の活動について確かめてみましょう。

- ・医療支援や救援物資を届けてくれた。
- ・青少年赤十字のメンバーも支援活動をしていた。

4 単元のめあてを立てる。

○ 今日、学習した地震以外で、私たちの周りには安全でないことは、どんなことがあるのでしょうか。

- ・交通事故
- ・火事
- ・台風
- ・大雨
- ・土砂崩れ

○ 今日の学習を振り返って、わたしたちの暮らしを守ってくれる仕事は、どんなものがあるのかを調べてみたいことを書いてみましょう。

・「20 大都市災害時相互応援に関する協定」に加入している各都市を紹介する。

※相互支援（応援）協定とは、広域的な災害対策を効率的に展開することを目的としている。

・**新防災教育副読本の 51 ページ**を見て、日本赤十字社や JRC の活動について知るとともに、スタッフの思いについても考えさせる

・地震以外でもわたしたちの生活を守ってくれていることに気付かせ、その仕事について調べてみたいという意欲を持たせる。

震災以外でも、わたしたちの暮らしを守るために、まちではどこでどのような人たちが働いているのでしょうか。

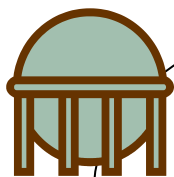
2 人々をつなげる活動 P50-51 学習シート

年 組 名 前

◎ 震災が発生したときに、いろいろな人たちが、たくさんの救助活動や支援活動を行いました。どのような取り組みが行われていたのかをふり返り、自分たちにもどんな取り組みができるかを考えてみましょう。

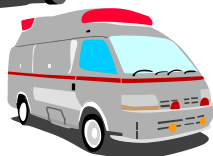
○震災が発生したとき、下の機関や団体が、どのような活動を行っていましたか。

仙台市、水道局、ガス局、交通局



自衛隊

警察・消防署



○わたしたちの暮らしを守ってくれる仕事にはどんなものがあるか、調べてみたいことを書いてみよう。

その他の団体・NPOなど